緊急報告会「平成28年熊本地震（速報）」を開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センター緊急報告会の様子

減災連携研究センターは、４月20日（水）、減災館において４月14日（木）に起こった平成28年熊本地震の緊急報告会を開催しました。自治体や民間企業、報道、一般市民、大学関係者、学生を含め、約280名の参加がありました。

報告会では、冒頭に福和センター長より、阪神・淡路大震災との揺れの違いや被害の違い、この地震から導かれる家屋の耐震化等の課題について報告がありました。次に、1889年の明治熊本地震との比較において、西澤泰彦環境学研究科教授より明治熊本地震の被害調査について、武村雅之寄附研究部門教授より1889年明治熊本地震と今回の地震（速報）について、当時の被害調査から推定される震度分布、震源、今回の地震との関連性等について報告がありました。続いて、鷺谷　威減災連携研究センター教授より、本地震の概要と地学的特性、山中佳子環境学研究科准教授より、地震観測記録やGNSS等から推定された震源特性や地震活動、今後の地震・火山活動等について報告がありました。さらに、野田副センター長より、南阿蘇の土砂崩壊と土質特性及び河川・堤防・ため池の被害が報告されました。次に、護　雅史減災連携研究センター特任教授、平山修久減災連携研究センター准教授、阪本真由美減災連携研究センター特任准教授より、現地緊急調査報告として、全体概要、建物被害調査結果、上下水道の被害・復旧状況、震災廃棄物の問題、避難所の状況・課題等について報告がありました。さらに、倉田和己寄附研究部門助教より、スマートフォンアプリも活用した災害情報集約WebGISの仕組みと本地震での活用事例、今後の展開について報告がありました。最後に、上園智美受託研究員より、近々の被害調査報告について、熊本市内、益城町を中心に報告がありました。以上のように、様々な専門家からの報告が行われ、それぞれの報告に関して、フロアから活発な質疑応答が交わされました。

報告する福和センター長

報告する武村教授

ICCAE 第1回オープンセミナーを開催

●農学国際教育協力研究センター

農学国際教育協力研究センター（ICCAE）は、４月18日（月）、農学部第３講義室において、2016年度第１回オープンセミナーを開催しました。今回は、ペルー共和国のラ・モリーナ農業大学より招いたルイス・イコチア・サラス水産学部教授の講演が行われました。イコチア・サラス教授は、「エルニーニョ・南方振動と農水産業への影響」と題した講演の中で、エルニーニョがどのように発生し、海洋及び大気の状態に影響を及ぼすのかを解説するとともに、エルニーニョの発達により、海洋生物の移動、分布が大きく変化することについて、研究例をあげて紹介しました。また、エルニーニョが様々な作物の生産と関連産業に大きな影響を及ぼしていることを示し、経済活動の損失、あるいは生命の危機といった世界各地での自然災害を軽減するために、エルニーニョの予測が益々重要になっていることを指摘しました。本オープンセミナーを通じて、エルニーニョ現象に関わる指標生物の群集動態や、より信頼性の高い予測に向けた課題などについて、学内外の参加者とともに最新の情報を共有することができました。

ルイス・イコチア・サラス教授の講演の様子

第119回防災アカデミーを開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、４月28日（木）、減災館１階減災ホールにおいて、第119回防災アカデミーを開催しました。今回は、株式会社日建設計執行役員エンジニアリング部門構造設計グループ副代表の鳥井信吾氏による「日本の運命を握る超高層建築の現状と未来」と題する講演が行われ、約100名の参加がありました。鳥井氏は多くの超高層ビルの設計を手掛けてこられたその道の第一人者です。

講演では、最近国土交通省から発表された超高層建物の検討用地震動案に触れ、地域によっては従来の法律のレベルに対して２倍の大きさがあることを指摘、それに対して設計者はどう対処すべきかについて話されました。さらに、自然に対してはあくまで謙虚にとのことで、名古屋の超高層ビルや東京スカイツリーなどで行われている様々な耐震設計上の工夫をわかり易く説明されました。鳥井氏の誠実な人柄を感じさせる熱弁に参加者一同が聴き入りました。

講演する鳥井氏